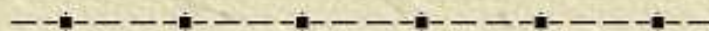


日本語になった聖書

シリーズ・日本人と聖書

第15回



口語訳聖書(1955年)

✳️「新かなづかい」と「漢字制限」の採用

– 「幸福(さいはひ)なるかな、心の貧(まづ)しき者。義に飢ゑ(え)渴く者。」(文語訳)

✳️ 翻訳方針

– 「民衆の書」を目指して、何より分かりやすさ、意味の明確さを第一に／「エホバ」が「主」に

✳️ 厳しい批判

– 「気品の高さを全く欠いていて文学的な力と香気が決定的に乏しい」

新改訳(1970年)

✳ 福音派(聖書の無謬性を信じる)による翻訳

✳ 翻訳方針

—「言語にあくまでも忠実であり、最も読みやすく、しかも聖書としての品位を失わない訳文」

✳ 特徴

— 節ごとの改行・漢字すべてにルビ・写本問題などを欄外注に記す・YHWHは太字の「主」に

✳️ キリストの神格がはっきり訳出された

- 口語訳 > 万物の上にあります神は(ロマ 9:5)
- 新改訳 > このキリストは万物の上にあります

✳️ おかしな日本語

- 口語 > よく言っておく。
- 新改訳 > まことに、あなたがたに告げます。
- 「会堂でむち打ちますから」「彼らを死なせませす」
- 「です・ます体」の説教

新共同訳(1987年)

✳ カトリック・プロテスタントの共同訳

✳ 問題

- 固有名詞:「イエズス」か「イエス」か
- 翻訳の指針:「形式ではなく内容を訳す」
 - 「心の貧しい者」は「ただ神により頼む人々」

✳ 「共同訳」(78年)への批判により方針転換

✳ 1987年は「明治元訳」から丁度100年目

辞書に載った聖書語

✧ 聖書語

- － 愛、悪魔、安息日、異邦人、栄光、神、救世主、教会、悔い改め、クリスチャン、祭司、使徒、聖書、聖徒、聖霊、宣教、全能、選民、洗礼、造り主、天国、天使、伝道者、パラダイス、ハルマゲドン、福音、復活、黙示、預言者、隣人

✧ 半分は中国語訳聖書から

✧ 骨格は「明治元訳」で形成され、「大正改訳」でほぼ定まった

✳️「大日本国語辞典」1910年代 18語

– 愛：「宗教上の語。神が、我ら人類を保護しいつくしむ性質」

– 神：「基督教にて宇宙を創造し且つ支配する全知・全能の主宰者。」

✳️「大言海」1930年代 16語

✳️「広辞苑」1950年代 26語

✳️「日本国語大辞典」(第2版)2002年 30語

日本語になった聖書語

✦「堀川君がカープ入団を決めたことはカープファンにとって**福音**であった。そして野球人の**バイブル**とも言える「巨人の星」を手に入団した堀川君は、万年Bクラスであったカープの**救世主**となった。開幕戦こそは厳しいプロの**洗礼**を受けたが、打てない守れないチームという**十字架を背負って**投げ続けた。彼の登板日は、**迷える小羊**であった広島市民にとって**安息日**となった。」

日本語の意味を変えた聖書語

✧ 神

- そもそも「神」と「仏」は対立的に用いられた
- 最初は訳語に困った
- 「仏」をも含める語として使われるようになった

✧ 愛

- 仏教ではマイナスの意味を持っている

✧ 義

- 「個人的な正しさや社会的正義を超えるもの」

蒔かれ続けてきた種

- ✳️「ところが、ほかの種は、良い土地に落ち、実を結んで、あるものは百倍、あるものは六十倍、あるものは三十倍にもなった。」
＜マタイ13:8＞
- ✳️「もみがら」にしてしまうやっかいな土地
- ✳️「良い土地」になるまで蒔き続ける！